

No. 297

全 仏

4/59



天台山(浙江省)に建つ天台宗の大本山国清寺の大雄宝殿。575年に天台大師が
入山して修行した。後に日本からも最澄をはじめ多くの僧が、留学している。

(写真提供美乃美)

全日本仏教会

昭和59年4月1日

京都で同和委員会

研修会など活発な意見

第七回同和委員会は、二月二十三日午後一時から、京都・和順会館にて(一)五十八年度事業報告について、(二)その他、の議題で開催された。

現委員が今回にて、任期満了となるため実質的に最後の委員会となった。(一)については、まず事務局より年七回

組織専門委開く

県仏加盟促進など

組織専門委員会は、二月二十七日午後二時から、明照会館会議室に於いて、任期満了に伴い、現委員最後の委員会を開催した。

(一)五十八年度事業報告について
事務局より、同和委員会、東北・四国ブロック会議、全国都道府県仏教会代表者会議、第三十回全日本仏教徒会議の開催等、五十八年度に於ける組織部の活動報告がなされた。それを受け、反省点が話し合われた。

(二)未加盟県仏について

現在、県仏未結成、未加盟のところが一十一県あるが、全一仏教運動推進のため県仏結成、加盟促進の働きかけを続けるようにとの意見が出され、その県の現状を調査することとなった。

の委員会開催、奈良に於ける現地学習会、比叡山で開催された第三回同和研修会、糾弾会への出席等、五十八年度に於ける委員会の活動が報告された。それを受け、今後の反省点が話し合われたがこの中で特に、研修会については、情性とならぬよう内容的にも、今後検討していくべき

仏教伝道文化賞の贈呈式

横超慧日師と藤本幸邦師

第十八回仏教伝道文化賞贈呈式が、去る三月十七日午前十一時から仏教伝道センタービル(東京・三田)で開催された。

最初に、仏教伝道協会の沼田恵範会長による荘厳・献華・献燈、つづいて「仏教聖典」朗読が行われた後で佐藤密雄仏教伝道文化賞選定委員長から、審査報告があった。

今回は、文化賞に横超慧日師と藤本幸邦師が、また功労賞には西谷啓治氏と平喜久男氏がそれぞれ選ばれた。

大谷大学名誉教授の横超師は、明治三十九年生まれ、東大印哲科を卒業後、東方文化学院(現東大東洋文化研究所)で初期中国仏教の研究を続け、昭和二十四年から大谷大学に奉職、三十三年には、「広律伝来以前の中国に於ける戒律」で

であるとの意見がなされた。

(二)その他、については今年の八月下旬にアフリカにおいて、第四回世界宗教者平和会議が開催される。全仏に対しては日本宗教連盟を通じてWCRP日本委員会より出席の要請があるが、委員会としては、アメリカのアリントンにおいて開催された第三回世界宗教者平和会議での町田発言に対するWCRP日本委員会としての責任の取り方が未だ曖昧であるとし、出席の有無は、理事会にて検討した後にすべきであるとの意見が出された。

文学博士号取得。「中国仏教の研究」、

「涅槃経と浄土教」等、多数の著書がある。

藤本師は、明治四十三年生まれ、駒沢大学を卒業後、総持寺僧堂に安居、第二次大戦後、戦災孤児救済寺院里親運動を提唱し、多数の戦災孤児を育てる。児童福祉法制定後は養護施設円福寺愛育園を創立し、園長として今日に至る。曹洞宗の布教師としても活躍、「親無き子等のために」等の著書がある。

西谷氏は、明治三十三年生まれ、京大哲学科を卒業、同大に奉職、西田幾多郎、田辺元両氏と共に京都学派を代表する哲学者の一人となる。昭和十一年、宗教学研究のためドイツに留学、四十年、日本学士院会員に選ばれる。また東洋思想と西洋哲学との内面的結合を意図した学問

的功績により、西ドイツからゲーテメダルを贈られる。現、京大名誉教授、「神秘思想史」など著書多数。

平喜久男氏は、明治四十四年生まれ。カリフォルニア大学医学部を卒業、開業医として現在に及び、医学を通して地域社会に奉仕を続けている。第二次大戦前、仏教青年会運動に参加、サンフランシスコ湾岸地区仏教連盟を創立、初代理事長、北米仏教連盟理事長を歴任。戦後は米国仏教団理事長、西本願寺フレズノ別院理事長等に就任、日承二世在家伝道者として現在も活動している。

なお、この日受賞式に全仏からは来賓として、川島文化部長が出席した。

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

同和推進に向けて

蓮池 瑞旭



私は草深い吉野の山の中に住んでいます。近年、著しく建築様式が変化し、それがため、木材の需要が少なく、これにたよって生活を守ってきた私達の地域にとっては、文字通り火の消えた

この地が政治の中心であった頃、大和國家の支配体制が各地に起こる反乱の激発によって動揺し、その政治的危機を乗り越えるために律令の体制をしいに整えていったこと、特に聖徳太子

ような冬の生活となりまし
た。その上に厳しい寒波が襲いかかり、来る日も来る日も積雪の中で、間伐(二・三十年前はこの材もよいねだんで売れた)から作り出す杉の木目彫の作業にとりくみ、今やと淡い春の気配も感じられるようになりました。

(全仏同和委)
員・浄土宗

の仏教信仰を通し、法隆寺・四天王寺の建立等を経て、日本に入った仏教は、鎮護國家の祈

請そのものが仏教活動として流布されて来たことであり、「護國三部經」として金光明經・仁王般若經・法華經を定めるに至ったことが頭をよぎります。

しかしここでは、中国でのこの經典の主旨である、王権への自己批判としてはなく、ただ支配者側に奉仕する者となりさがり、人びとを救済する道をすでに置き去ってきたことに胸が痛

みます。大宝律令(七〇一年)の中に見る僧尼令は、この間の仏教政策を集約されたものと見るべきでしょう。

○僧尼は寺に居して國家の安穩を祈禱する官僧にかざられていること。○所定の寺院以外での僧尼の宗教活動の自由は全く認められないこと。

こうしたことを想起しながら座りこんでいると、千三百年前の古都飛鳥の地で、その大半が政策的に企画立案されたのであろうかと、數物として使かっているナイロンを通して、

春には早い大地の冷気だけのものではないつめたさが襲いかかって来ます。その後藤原貴族と癒着していく中で仏教の貴族化は当然の路線であったの

でしようか。

鎌倉時代に入り末法思想を背景として、自己の仏道修行や、民衆の救済に立ちあがる仏教者としての働らきも、この時期になって地湧の菩薩像(聖)として輩出してくる様を、同和問題にとりくむ者としては、学びとらねばならないと思います。今までの研修で修めて来た感覚を基本にして、被差別の側に立ちきって庶民の歴史をほりおこす中で、教義はもとより、伝統的な仏教行事を見直すことを通して、教団の体質にまでせまる原点となるのではないかと、この土地は私に訴えているようであります。

今現に、それぞれの教団が提起を受けた問題のみならず、教団が抱えている差別体質は、どのような歴史的な流れの中で醸成されて来たのか、根本的に研究が進められなければ、本来のものになり得ないのではないのでしょうか。すでに夕闇は石舞台古墳の石組をつみ、只一個の巨石となって横たわり、今も権力のシンボルのように見え、その恐ろしさから身をよけ、「人間が人間を破る路をわたしは歩まない」と誓いながら、飛鳥の地を去ることにしました。

「写真は同和推進の重要性が討議された昨年の第30回全仏大会」

映画「空海」の感動

佐藤純彌監督に聞く

出会いに感じた「すごさ」



佐藤監督(左)と主演の北大路欣也

弘法大師御入定千
百五十年を記念した
映画「空海」が、い
よいよこの十四日、
全国の東映系の劇場
で一般公開される。
そこで封切りに先だ
ち、この超大作のメ
ガホンを取った佐藤

純彌監督に苦心談などをうかがってみた。
佐藤監督は昭和七年生まれ。三十一年
に東大仏文科卒、東映に助監督として入
社、四十二年からフリー。「未完の対局」
等、これまでに三十数本の作品を監督し
ている。
——いよいよ封切りがせまってきた
したが、自分の撮った作品が一般に公
開されるという、その直前の心境をま

ずお聞かせ下さい。

普通、自分で徹底的にのめりこんで創
った作品に対しては、封切前は意外と穏
やかなものです。もう、お客さんなり、
営業や宣伝の問題ですから。ところが今
回は、一人でも多くの人に観ていただき
たいという気持が非常に強い。

それはこの映画が、もともと真言宗と
か仏教とかという、枠の中で出発したに
もかわらず、創っていくうちにそうし
た枠を超えた存在に、どんどん大きくな
っていったからです。そこで、これまで
あまり仏教に関係なかった人たちに、ぜ
ひ観ていただきたいと思うわけです。

——この作品の話、最初に聞いた
時は、どんなお気持ちでしたか。

最初は、創っても多分当たらないだろ
うと思いました。ところがプロデューサ
ーに勧められて資料を読むうち、おもし
ろくなりましてね。それまでは、空海は
平安仏教を創った人と、一般の方と同じ
程度の知識しかなかったわけです。

しかし、知れば知るほど、空海という
人を真言宗という枠の中に閉じ込めてお
いては勿体ない、と感じ始めました。全
く無縁だった私が、空海と出会った時に
感じた「すごさ」を、どうしても多くの

人に伝えたいと思ったわけです。

僕は終戦の時が中学一年で、とても感
じやすい年頃でした。それまで絶対だと
教えられてきたものが、自分の中で崩壊
してしまっただけ。それでは何を求めたらよ
いか、それを問うところから青年時代が
始まったわけです。

そうした中で何回か、宗教を求めたり、
宗教と出会おうとしたこともありましたが、そのうち年とともに、自分の問題を
日常性の中へ解消させてしまうようにな
りました。まさにそうした時に空海と出
会い、今までの宗教に対する概念が、ガ
ラッと変わっていったということです。

これまで宗教というものは、ある絶対
者が創った掟とか教えというものに、ど
う従い、どう守り、どうやって絶体者の
後をついていくか——というものだと考
えていました。だから信仰は、理屈では
持てない、何か衝撃的な事件が起こり、
その宗教を絶対的だと信じない限り、持
てないものだと思っていました。

ところが今回、密教をよく勉強してみ
ると、人間と絶対者の位置づけが、これ
までの教とは違うんですね。つまり密
教の中には絶対者イコール人間なんだと
いう考え方があり、それがとても新鮮で
感動的でした。

もう一つは、空海が現実を肯定してい
るということ、現実を善悪という形でと
らえなくて、実在しているものにとらえ
ていること。だから現実の中で仏に成ら
なければ、現実の中で幸福に成らなけれ
ば、何の意味があるんだ、という考え方、

これも確かにその通りだと納得するものがあるわけです。

——特にご苦労したのは、どんな点でしょうか。

シナリオは、早坂さんが、まさに命をかけて書いてくれました。人間としての空海と、宗祖としての弘法大師をどう区別し、どうまとめしていくか、また、空

スタッフ全員の熱意が実る

撮影に入りますと、この映画はクライマックスの連続みたいなもので、普通は事故があったり、予定が遅れたりするのですが、今回はケガ人も無く、予定したシーンを予定した日に全部撮り終えることができました。それはスタッフが、



唐招提寺をバックに最澄を演じる加藤 剛(左)

海という宗教上の人物を、どうやって映画という一般大衆のマスメディアで表現していくかということ、そうした問題をすっかり解決してくれましたので、その点の苦労はなかったです。

キヤスティングについても、皆、一本の主役を取れるような人たちが、一生懸命にやってくれ大変うまくいきました。

仏教には無縁だった人がほとんどでしたが、空海を映像化することにもすごく熱意を持って誠心誠意やってくれたおかげだと思っています。そういうふうにはスタッフをまとめていってしまう力とは何だろうか、と考えますと、普通そういう仕事は監督がやらなければならない仕事なんです、その苦労もなく皆がどんどんまとまってくことに、不思議な思いを強くしました。

編集の段階になると、この映画の場合、四十分ほど切らなければならず、惜しいという気持ちもありましたが、三時間が限界ということで、プロの技術としてカットしました。

こう考えてきますと、どうも苦労らしい苦労はなかった、というのが今の実感です。

——中国ロケはいかがでしたか。

特に僕の前作「未完の対局」の時知り合った人々が全面的に協力してくれ、大変スムーズに進めることができました。なかでも幸運だったのは、恵果阿闍梨を

演じる俳優にピッタリの人が見つかったことで、全体を通して実に楽しいロケだったと思います。

——空海という人物の魅力は、どこにあると思いますか。

まず、思想家でありながら、ものすごく行動者だったということ。その行動の原理は時代とか状況に全くとらわれないで、すごいスケールでそこからつきぬけていったこと。

また、今ふうにいえばクロスオーバーの人だったと思います。宗教、文芸、語学、芸術、工学、土木と各方面にわたる才能を持ち、世界でも何人もいない天才でしょう。その人が千二百年前の、日本の歴史が揺籃期にあった時代に生まれ、

仏教に無縁でも見て欲しい

もう一つ。現代は科学技術万能の世の中ですが、人間が決して自然界を支配してはいけない、できるものではないという考え方ですね。僕は遺伝子をいじったり、試験管ベビーの実験をしたりすることは、人間を絶対に幸福にしないと、思います。そのへの歯止めがぜひ必要でしょう。

しかし実は、科学の進歩とは、本当は今まであったものを後追いついてるだけなんです。そのへんのことを空海は全て見通して、自然の理法、自然の法則が絶対なんだと、その中で生きようとしなければならぬといっているわけで、これは現代に対するすばらしい警鐘とも

全てをやりとげたことは、大変なことだったと思います。

ニーチェもマルクスも、人間社会の進歩は、闘争の原理が支配しているといっています。そういう面は確かにありますが、現実には中東を見てもアフガニスタンを見ても、闘争の原理では、絶対に解決つかないところまでいってしまったような気がします。これ以上は破滅か闘争をやめるしかないところまで、ぎりぎりまでいっているのではない。そういう意味で空海の唱えた調和の原理——調和が人間を進歩させるといふ東洋的な考え方ですね、空海を持つ、全てを包み、その中で自己浄化していくという調和の原理こそ、今日最も必要なものだという気がします。

いえると思います。

——最後に何か一言ありましたら、どうぞ。

仏教にも真言宗にも無縁だった僕が、空海に出会うことによって、こんなに感動し、こんなに得るものがあつた。そういう意味からも、この作品はなるべく無縁の人に観ていただきたい。真言宗の関係者は、一人でも多くの一般の人たちに呼びかけてもらいたいと思います。

仏教に関心のない人でも、必ず何か得られるものがあり、ストーリーもおもしろいと自信を持っています。

——長時間にわたり、ありがとうございました。

法律相談室

回答・全仏顧問弁護士

長谷川 正浩

〔質問〕拙寺もつい最近、税務調査を受けました。その際、問題となったのが、小生の給与の額です。現在、月給二〇万円で所得税を取っていますが、それでは低すぎるので、申告し直すようにということでした。しかし小生は質素に暮しており、税務職員のことなどが納得できません。こうした場合、どうすればよろしいのかご教示下さい。

(千葉県、A寺住職)

〔回答〕住職の給料は責任役員会で決めるわけですから、お寺の関係者以外の者からは、何ら文句を云われる筋合いではありませんが、気をつけておかなければいけないこともあります。その第一は、お寺以外の収入も

含めた、全体の収入で、ご住職の家族が生活していけるだけのものでなければなりません。例えば、学校や、役所などへお勤めのご住職は、それらからの給料と合わせて、一家の生活が成り立っていくだけの収入がないと不自然です。なかには、お寺からは給料をもらわないという方もおられるでしょう。あるいは、お寺から給料をもらわないだけでなく、他の収入からお寺の維持費を持ち出しているというご住職もおられると思います。そういった方々も、他からの収入がある筈ですから、それらの収入で、現在の生活が営むことが

職員からは「では、それをお金に換算して申告して下さい」といわれます。消耗な議論に発展していきまますから少なくとも世間並にしておかなければなりません。

第二に気をつけなければならぬことは、自分の生活レベルを維持するに足る収入がなければならぬということです。月収二〇万円の方が、個人的に高級車に乗りまわしたり、又、子弟を大都市に遊学させていたりしては、不自然極まりないですから、どこからか収入がある筈だということになります。即ち、ご住職の家計簿で一ヶ月の支出

給与の額の決め方

できれば、それはそれで良いわけですが、しかし他からの収入もないのに、最低限度の生活を維持出来ないような給料しかもらっていないといった例も、時々耳にします。なかには、生活保護をうけている方の収入よりも少ないという極端な例も私の経験ではあります。

た。こういった方を第三者からみると、一体どうやって生活しておられるのか不思議ですし、ひいては宗教法人に対する調査の糸口になりかねません。こうした方は、「お寺にはお供え物があるから」ということで応対する人がおられるようですが、そうすると税務署の

の合計に相当する金額の収入だけは、お寺かあるいはそれ以外からか、必ずある筈です。この点を考慮してご住職の給料を決めておかなければなりません。

ところで貴寺ではご住職の給料が二〇万円ということですが、他所からの収入があつて(例えば、年金とか、預貯金の利子など)、それも含めて現在の生活を維持していくことができれば、何ら問題はありませぬ。ほかに収入がなくとも、二〇万円で十分生活しているような事情(例えば夫婦二人でつましく生活すれば困難ではないでしよ

う)があればこれも問題は無いでしょう。しかし、単にご住職だけが質素に暮していると思っただけで、第三者からみると到底二〇万円では生活していけそうもないことであると、ほかにも収入があるのでは……ということになります。税務署の人が「低すぎる」といったのは右にいうような不自然さが原因ではないでしょうか。そうでなければ、税務署の人の云うことは全く無視して結構です。気にする必要はありません。

お寺の収入に比較してご住職の給料が低いと、もつと給料をあげるようにという指導をうけるといった例がときどきあります。これは何の根拠もない指導ですから無視しても差しつかえはありません。お寺の収入は即ちご本尊様の収入ですから、ご住職が節約して最低限で済ませようということに対して、その態度が立派だといってほめられこそすれ、批判されることはないでしょう。もし、そのような強要があれば、徹底的に修正申告を拒否して争うべきであり、それがご本尊様に対する信仰の証しでもあります。争った場合、どうなるかは本誌昭和五八年一〇月一日号、No.二九二の本欄をごらん下さい。

なお、全日本仏教会では、毎月第二・第四木曜日午後一時から四時まで、長谷川先生による「法律無料相談室」を開設しています。お気軽にどうぞ。

囲碁記念対局

大会優勝の安川喬氏が 坂田日本棋院理事長と

去る二月七日、全日本仏教会囲碁大会が、日本棋院の全面的な後援を得て東京市ヶ谷の日本棋院に於いて開催された。その際Aクラスで優勝——つまり実力日本一の榮譽に輝いたのが安川喬氏(高山・高野山真言宗)であった。

その安川氏が、坂田栄男日本棋院理事長の胸を借りて記念対局を行うことになった。

記念対局は、三月六日午後四時より囲碁の対局場として名高い紅尾井町の福田家で行われた。参会したのは、両対局者の他に、全日本仏教会から囲碁委員の来馬規雄夫妻、白川良純、横山敬明、及川真介、田沢奉敬の各師並川島、剛山、野生司の各職員、日本棋院からは増渕辰子六段、広瀬保博「棋道」編集長、東洋一事業部長、相場一光記者の他カメラマンまで揃うという物々しさであった。

対局は、相談の結果、安川氏の強い希望を容れて三子、持時間は安川氏五十分、坂田理事長三十分、その後は一分間の秒読みと決定した。

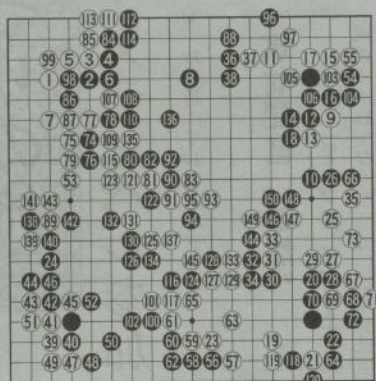
午後四時半、床の間を背に坂田氏着座。安川氏も緊張の面持ちで対座、参会者が熱い視線を盤上に注ぐうち開局した。安

川氏の子想以上の健闘にあつて坂田氏は秒読みに追い込まれるなど手に汗を握る壮絶な戦いを展開した。その結果、安川氏が二日を余した。

終局後、一同で会食を和気あいあいのうちに楽しんだ。

第一回の囲碁大会はこうして終了したが、相互の親睦の実をあげた点に成果があつた。今年度第二回を開催する予定であるので、第一回以上に多くの方々が参加されることを願っている。

猶「棋道」五月号に、熱戦の譜が詳細に掲載されることになっている。



一〇五〇手まで、以下略

恒河

ごうが

現代を生きる仏教カラーグラフィクス

大遠忌に合わせ総力取材!!

特集 弘法大師空海

絵伝にみる弘法大師空海の生涯 村岡空

対論 いま日本人にとって、なぜ空海か

梅原猛 vs 河合隼雄



- フォト・ギャラリー—生命が燃える—空海の宇宙— 写真 池 利文
- 秘密荘厳のこころ—空海の宇宙によせて— 松長有慶
- 映画「空海」を創造する男たち 早坂暁・佐藤純彌・北大路欣也
- 仏典ゼミナール 『般若心経秘鍵』を読む 金岡秀友

仏教の叡知を現代にとりもどす《推薦》全日本仏教会

創刊第2号
好評発売中

●A4ワイド判166頁(カラー66頁)
定価2,200円(〒300円)

特大図録(690×510ミリ)「板彫弘法大師像」

対談 日本仏教のなかの弘法大師空海
那須政隆 vs 山折哲雄

- 連載「仏陀」 瀬戸内寂聴 挿画・岩崎巴人
- Photo & Essay 中尊寺を撮る 稲越功一
- 長嶺ヤス子「曼陀羅」の舞を語る

《創刊号の主な内容》●A4ワイド判 定価2,200円

特集 ブッダとキリスト

対談私のなかのブッダとキリスト

中村元 vs 北森嘉蔵 / 司会 奈良康明

対論人間としてみたブッダとキリスト

梅原猛 vs 山本七平

学研 販売総局 〒145 東京都大田区上池台4-40-5
☎(03)720-1111(代)

昭和59年4月1日



五月七日
— 十日
フェスティバル参加

全日本仏教会では「ランタンフェスティバル参加と韓国の旅」の参加者を募集しています。

日時 五月七日(月)～十日(木)

参加費用 十万九千円

募集人員 三十人

ランタンフェスティバルというのは、「花まつり」のことで、韓国では毎年盛大に行われており、本年は五月八日に開催される予定です。

今年、ソウルだけでなく慶州へも回るツアーが計画されています。五月七日午前、成田空港出発、太古宗本山奉元寺等を拝観。翌八日、曹溪宗総本山曹溪寺にて花まつりを祝う各種行事に参加。九日には専用バスで慶州へ、天馬塚、国立博物館、市内観光。十日は通度寺拝観後、釜山から東京へ——という日程です。

全仏へは、韓国仏教宗団協議会から正式の招請状もきており、両国仏教徒の友好と文化交流を深める意味からも、一人でも多くの方が参加されますよう、お待ちしております。

なお、期日が大変せまっていますので、参加を希望される方は、至急、日本交通公社団体旅行東京中央支店(〇三一二五七―八四二一)もしくは、全仏国際部ま

で、お電話にてお申込み下さい。

筑前琵琶「法然」

テープ差し上げます

現在では数少なくなっている筑前琵琶奏者の宮武旭豊師が、弟さんの冥福を祈り岡山の誕生寺に参詣したことが縁となり、自ら節付けをした「法然上人伝」をカセットテープに録音製作し、無料で頒布している。ご希望の方は左記へ。

〒153東京都目黒区東山三―四一〇、〇三―七三―一五六五八、宮武旭豊(今井豊子)師宛

事務局録事

三月

一日 川崎大師五重塔落慶式出席

十日 WCRP日本委員会出席

十三日 局内会議

法律相談室

十五日 十六日 WCRP研究会出席

十七日 仏教伝道文化賞贈呈式出席

二十四日 IBE理事會出席

二十六日 和宗管長晋山式出席

二十七日 法律相談室

二十八日 局内会議

機構検討委員会

法華經のふるさとへ帰る法華俱樂部。

創業して60年。その間、法華經の精神を企業理念として歩いてきた法華俱樂部。その、ゆかりの地、ラージギルに念願のホテルをオープンします。仏蹟巡拝の拠点としてご利用ください。

59年11月12日
開業 予約受付中



●ホテルから近い仏蹟——
靈鷲山。竹林精舎(ラージギル)
成道の地ブッダガヤ、ナーランダ大学跡、

●ご予約、お問合せ、資料ご希望の方は下記へ、法華旅行03(834)2576 〒110台東区上野6-9-19



インド法華ホテル

昭和五十九年四月一日発行
四月号 第二九七号

発行人 矢 萩 信 顕
編集人 川 井 匡 俊

発行所 財団法人 全日本仏教会

東京都港区芝公園四―七―四
電話〇三(四三七)九二七五